

学習指導資料

「学習評価の事例集」(宮城県版)

高等学校

第2編(各教科)

地理歴史

令和4年1月

宮城県教育委員会

仙台市教育委員会

石巻市教育委員会

<各事例概要一覧と事例>

(P. 2～10)

事例1 キーワード 小単元の指導と評価の計画

科目 地理総合

単元 世界の気候と人々の生活

(内容のまとめり B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解)

中項目「B 国際理解と国際協力 (1) 生活文化の多様性と国際理解」の小単元「世界の気候と人々の生活」の指導と評価の計画の例を示した。本事例は対話によって生徒が思考を深め、知識をもとに思考力・判断力・表現力を育む仕立てになっている。「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の事例も示した。

(P. 11～18)

事例2 キーワード ワークシートを活用した観点別学習状況の評価

科目 地理総合

単元 人口問題

(内容のまとめり B 国際理解と国際協力 (2) 地球的課題と国際協力)

内容のまとめり「B 国際理解と国際協力 (2) 地球的課題と国際協力」について、事例では小単元となる人口問題の中の少子高齢化を素材に取り上げ、ワークシートを活用した3観点の観点別学習状況の評価例を示した。主体的学習に取り組む態度については、「自らの学習を調整しよとする側面」についての評価の一例を示した。

(P. 19～28)

事例3 キーワード 「内容のまとめり」の構造を踏まえた指導と評価の計画

科目 歴史総合

単元 国際秩序の変化や大衆化と私たち

(内容のまとめり「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」)

内容のまとめり「C 国際秩序の変化や大衆化と私たち」について、内容のまとめりの構造を踏まえた指導と評価の計画の一例を示した。本事例では、大項目Cの中項目(4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」について、「平等・格差」の観点から指導する具体例と「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価例を示した。この学習は大項目のまとめとなる単元である。

(P. 29～43)

事例4 キーワード 歴史総合の学習の総括となる単元の指導と評価の計画

科目 歴史総合

単元 グローバル化と私たち

(内容のまとめり「D グローバル化と私たち」)

内容のまとめり「D グローバル化と私たち」について単元の指導と評価の計画を示した。小単元「(4) 現代的な諸課題の形成と展望」は、大項目A～C及び大項目Dの(1)～(3)までの学習を踏まえて、学習の充実が求められる単元であり、歴史総合の学習を総括する単元となる。本事例では、「対立と協調」ならびに「開発・保全」の観点から、主題「環境問題を巡る国内や国家間の対立」を設定し、3つの観点についてそれぞれ観点別学習状況の評価事例を示した。

地理歴史科 事例 1 (地理総合)
 キーワード 小単元の指導と評価の計画

単元名
 世界の気候と人々の生活

内容のまとめり
 B 国際理解と国際協力
 (1) 生活文化の多様性と国際理解

1 単元の目標

- ・世界の人々の特色ある生活文化をもとに、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。
- ・世界の人々の特色ある生活文化をもとに、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解する。
- ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「気候要素」などの主題を設定し、「人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのだろうか、そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化をもとに、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ・世界の人々の特色ある生活文化をもとに、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、「気候要素」などの主題を設定し、「人々の生活はそれぞれの気候要素とどのように関わり合っているのだろうか、そして、世界各地ではどのような生活が営まれているのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

3 指導と評価の計画（7時間）

内容のまとめり	小単元	各次の内容と配当時間例
B (1) 生活文化の多様性と国際理解 (12時間)	①世界の地形と人々の生活 (5時間)	導入 生活文化を考察する方法 (1時間) 第一次 大地形・変動帯と人々の生活 (1時間) 第二次 安定地域と人々の生活 (1時間) 第三次 河川がつくる地形・海岸の地形と人々の生活 (1時間) 第四次 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活 (1時間)
	②世界の気候と人々の生活 (7時間)	第一次 気温・降水と人々の生活 (1時間) 大気大循環と人々の生活 (1時間) 世界の植生と気候区分 (1時間) 第二次 熱帯・乾燥帯の生活 (1時間) 温帯・亜寒帯・寒帯の生活 (1時間) まとめ 世界の気候と人々の生活 (追究事例) (2時間)

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準等
第一次 3時間 抜	①【ねらい】気候要素と気候因子，気候が生活に与える影響について理解する。 【学習課題】「気候は人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。」				
	<ul style="list-style-type: none"> 気候は人々の生活にどんな影響を与えているか考えてワークシートにまとめる。 同じ緯度上にある2つの都市の各月の平均気温を示した資料を見せて，それをもとに気温と気候因子の関係について考察し，ワークシートにまとめる。 世界の年平均気温・年降水量・おもな海流を示した資料を見せて，それをもとに降水のしくみと分布の特徴について，気付いたことをワークシートにまとめる。 	○		●	<ul style="list-style-type: none"> ●小単元の学習を見通しをもって取り組もうとしている。 ○気候要素に影響与える気候因子について理解している。 ●降水のしくみと分布の特徴について理解している。

<p>・4枚の写真(①～④)を見せて、それをもとに気候が生活に与える影響について、気付いたことをワークシートにまとめる。</p> <p>①木で作られた家の写真 ②白い壁と小さな窓が特徴的な家の写真 ③高床式の家の写真 ④日干しレンガで作られた家の写真</p>	○	<p>○住居の写真から気候と人々の生活に与える影響を多面的・多角的に考察している。</p>
---	---	---

②【ねらい】 大気大循環・恒常風のしくみと生活への影響，季節風（モンスーン）のしくみと生活への影響について理解する。

【学習課題】「風は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。」

<p>・大気大循環の模式図や偏西風から動力を得る風車の写真及び風を利用して進む帆船の写真を見せて、それらを基に大気大循環・恒常風のしくみと生活への影響について、気付いたことや分かったことなどをペアで話し合う。</p> <p>・季節風（モンスーン）は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうかについて、教科書の本文中から読み取ったことをワークシートにまとめる。</p>	●	<p>●大気大循環・恒常風のしくみと生活への影響について、多面的・多角的に考察している。</p> <p>●季節風（モンスーン）のしくみと生活や農業への影響について理解している。</p>
---	---	--

③【ねらい】 気候と植生の関係について理解する。

【学習課題】「ケッペンの気候区分はどのように気候を区分したものだろうか。」

<p>・ケッペンの気候区分図を見せ、何を指標にして気候区分したか考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>・ケッペンの気候区分図と世界の植生を示した資料を見</p>	●	<p>●ケッペンの気候区分について、区分の考え方や各気候の分布について理解している。</p> <p>○植生と気候の関係について、理解している。</p>
--	---	---

	<p>比べ、気候と植生の関係をまとめる。まとめたものを班で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各気候帯でみられる植生や農業の様子を示した資料を見て、人々の生活文化を理解するうえで、ケッペンの気候区分にはどのような有用性があるか、ワークシートにまとめる。 	●	<ul style="list-style-type: none"> ケッペンの気候区分の有用性について多面的・多角的に考察し、表現している。
第二次 2時間 抜	<p>④【ねらい】高温多湿な熱帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【学習課題】「熱帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。」</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> AfとAwの特徴について雨温図や植生の写真等の資料を見て、それぞれの気候の特徴について、読み取ったことや考えたことをワークシートにまとめる。 熱帯の人々の生活の様子などの写真を見て、高温多湿な熱帯の気候・植生と生活との関わりについて、気付いたことをペアで話し合う。その後、ワークシートにまとめる。 	●	<ul style="list-style-type: none"> 高温多湿な熱帯の気候・植生について理解してる。
		○	<ul style="list-style-type: none"> 熱帯の気候・植生と生活の関わりについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	<p>⑤【ねらい】水の少ない乾燥帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【学習課題】「乾燥帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。」</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> BWとBSの特徴について雨温図や植生の写真等の資料を見て、それぞれの気候の特徴について、読み取ったことや考えたことをワークシートにまとめる。 乾燥帯の人々の生活の様子などの写真を見て、降水が 	●	<ul style="list-style-type: none"> 水の少ない乾燥帯の気候・植生について理解している。
		○	<ul style="list-style-type: none"> 乾燥帯の気候・植生と生活との関わりについて多面的・多角的に考察し、表

<p>少ない乾燥帯の気候・植生と生活との関わりについて、気付いたことをペアで話し合う。その後、ワークシートにまとめる。</p>	<p>○</p>	<p>現している。</p>
---	----------	---------------

⑥【ねらい】季節の変化に富む温帯の気候・植生と生活との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

【学習課題】「温帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。」

<p>・温帯の分布を示した資料や温帯の4つの気候（C f a, C f b, C w, C s）の雨温図を見せて、それぞれの気候や植生の特徴をふまえて、生活と気候はどのように関係するかについて、地域を踏まえてワークシートにまとめる。</p>	<p>○</p>	<p>○季節の変化に富む温帯の気候・植生と生活との関わりについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
--	----------	---

⑦【ねらい】冬が長い亜寒帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。

【学習課題】「亜寒帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているだろうか。」

<p>・D fとD wの特徴について雨温図や植生の写真等の資料を見て、それぞれの気候の特徴について、読み取ったことや考えたことをワークシートにまとめる。</p> <p>・亜寒帯の人々の生活の様子などの写真を見て、冬が長い亜寒帯の気候・植生と生活との関わりについて、気付いたことをペアで話し合う。その後、ワークシートにまとめる。</p>	<p>●</p> <p>○</p>	<p>●冬が長い亜寒帯の気候・植生を理解している。</p> <p>○亜寒帯の気候・植生と生活との関わりについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
---	-------------------	--

⑧【ねらい】雪と氷に覆われる寒帯の気候・植生と生活との関わりについて理解する。

<p>【学習課題】「寒帯の気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているのだろうか。」</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ E T と E F の特徴について雨温図や植生の写真等の資料を見て、それぞれの気候の特徴について、読み取ったことや考えたことをワークシートにまとめる。 ・ 寒帯の人々の生活の様子などの写真を見て、雪と氷に覆われる寒帯の気候・植生と生活との関わりについて、気付いたことをペアで話し合う。その後、ワークシートにまとめる。 	<p>●</p> <p style="font-size: 2em;">○</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 雪と氷に覆われる寒帯の気候・植生について理解している。 ○ 寒帯の気候・植生と生活との関わりについて多面的・多角的に考察し、表現している。
<p>第三次 2 時間 扱</p>	<p>⑨ 【ねらい】 季節風（モンスーン）の影響を受ける人々の生活、モンスーンを利用した交易の歴史、さまざまな民族が共に暮らす社会について理解を深める。</p> <p>【学習課題】「季節風（モンスーン）は、東南アジアの人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。」</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨季の増水に備えた高床式住居の写真や東南アジアの交易と宗教の伝播及び東南アジアの言語と宗教を示した資料を見せて、それらをもとに季節風（モンスーン）の影響を受ける人々の生活、モンスーンを利用した交易の歴史、さまざまな民族が共に暮らす社会について、読み取ったことをワークシートにまとめる。 	<p>●</p>
<p>⑩ 【ねらい】 東アジア・東南アジア・南アジアにおける気候を生かした農業や生活文化について多面的・多角的に考察し、表現する。</p> <p>【学習課題】「東アジア・東南アジア・南アジアでは、気候を生かしてどのような農業や生活文化が発達してきたのだろうか。」</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ● 国別の米の生産量についての資料を見せて、気づいたことにワークシートにまとめる。 ● 季節風（モンスーン）と稲作の関係について考える。留）地図帳の資料を活用して季節風（モンスーン）の影響を受ける地域が稲作が中心となる地域になっていることに気付かせる。 ● ベトナム等の食文化に関する写真からモンスーンアジアの食文化についてペアで話し合う。 ○ 天然ゴム、油ヤシの国別生産量のグラフやマレーシアマレーシアの天然ゴムと油ヤシの栽培面積の推移を示したグラフを見せて、それらをもとに読み取ったことをワークシートにまとめる。 ○ 気候は人々の生活にどのような影響を与えているだろうか、単元の学習を終えて学習したことを総括する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● ● ○ ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業生産と気候の関係に注目してグラフから事象を読み取っている。 ● 季節風（モンスーン）の影響を受ける範囲と稲作が中心となる地域を理解している。 ● 食文化について、気候と関連することを理解している。 ○ 熱帯の気候を生かした商品作物の栽培について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ○ 気候の類似する地域の生活文化の共通性に気づくなど、単元の学習をとおして、気候が人々の生活に与える影響に関する知見を深め、次の学習課題を自ら考えようとしている。
---	---	--

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 評定に用いる「知識・技能」を評価するワークシートの例

第一次 1時間目

資料★ 北緯50度付近に位置するロンドンとチタの各月の平均気温	
<p style="text-align: center;">北緯50度付近に位置する ロンドンとチタの 各月の平均気温</p>	<p>同じ緯度上にある2つの都市の各月の平均気温を示した左の資料を見て、気温の変化について読み取ったことや考えたことをワークシートにまとめてみよう。</p>
<p>＜ロンドンの各月の平均気温＞ <u>夏は20度をこえず、冬は5～6度であり、気温の年較差が小さい。これは西岸の気候の特徴であり、暖流の影響を受けているからではないか。</u></p>	

<チタの各月の平均気温>

夏はロンドンと同じくらいの気温であるが、冬は氷点下20度を下回り、気温の年較差が大きい。これは海から離れた内陸部の気候の特徴があらわれているのではないか。

上記のような記述があれば、気候因子について触れており、「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

以下のような記述は「努力を要する」状況（C）と考えられる。

<ロンドンの各月の平均気温>

夏は20度をこえず、あまり暑くなく、冬は5～6度でありあまり寒くない。

<チタの各月の平均気温>

夏はロンドンと同じくらいの気温であるが、冬は氷点下20度を下回りかなり寒い。

このような記述では、数値を読み取っただけであり、気温に影響を及ぼす気候因子について概念として理解しているとは言えず、気候要素と気候因子の関係を整理するよう指導するなどの必要がある。

（2）評定に用いる「思考・判断・表現」を評価するワークシートの例

第二次 2時間目

資料★ 亜寒帯の様子

シベリアに広がる タイガの写真	凍ったまま売られる 魚の写真	ロシアでみられる 高床の住居の写真
--------------------	-------------------	----------------------

○ 亜寒帯の様子を示した上の3枚の写真を見て、亜寒帯の気候・植生と生活との関わりについて、気付いたことを書いてみよう。（3分）

タイガと呼ばれる針葉樹林が広がり、冬季の気温が低いことから魚は凍ったままでも屋外で売ることができ、地表が寒いことから寒さ対策のため建物の床が高くなっている。

○ 上記で書いたことをもとに、ペアで話し合ってみよう。（2分）

○ 話し合ってみて、新たに気付いたことを記入してみよう。（3分）

タイガと呼ばれる針葉樹林は、ほぼ同じ種類の樹木が生育する純林である。

冬季の気温は冷蔵庫ではなく、冷凍庫くらいの温度になる。

建物の床が高くなっているのは、部屋の暖房などの熱が地面に伝わり永久凍土が溶けてしまうと、その影響で建物が傾いてしまうため、それを防ぐためである。

上記のような記述があれば、亜寒帯の気候と人々の生活の関連を、複数の資料を活用して説明しているので、「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

以下のような例は「努力を要する」状況（C）と考えられる。

針葉樹林が広がっているところをタイガといい、冬季の気温は氷点下20度をこえるような場所もある。この地域の最近の建物は高床式の建物が多く見られる。

事実のみを説明し、自然環境等との生活の関係について触れていないなど、他の地理的事象との関係を考察するような内容が見いだせていない。人々の生活と自然環境の関わりに着目して考察するよう指導する必要がある。

(3) 評定に用いる「主体的に学習に取り組む態度」の評価例

この事例では、第三次の2時間目に「気候は人々の生活にどのような影響を与えているだろうか、単元の学習を終えて学習したことを総括する」学習活動を行う。気候の類似する地域の農業や生活文化の共通性に気づくなど、単元の学習をとおして気候が人々の生活に与える影響に関する知見を深めていけば「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

以下は「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる記述例である。

気候は人々の生活文化や地域の産業に大きな影響を与えている。アジアのようにモンスーンの影響を受ける年間降水量1000mmを超える地域で稲作中心の農業が行われており、気候が共通する地域は同じような農業が発達していることがわかる。また、降水の少ない乾燥地域では世界各地で生活のために地下水を利用しているなどの共通点が見られる。離れていても気候が類似する場合に同じような農業や衣食住が見られる事例をもっと調べてみたい。

次のような記述は「努力を要する」状況（C）の例である。

気候は人々の生活に影響を与えており、世界各地で気候に適応した衣食住や農業が見られる。

気候やその影響を受けた植生が、具体的に人々のどのような生活文化、産業に影響を与えているかについて、ケッペンの気候区分ごとに整理させるなどの手立てが必要である。

地理歴史科 事例2 (地理総合)

キーワード ワークシートを活用した観点別学習状況の評価

単元名

人口問題

内容のまとめ

B 国際理解と国際協力

(2) 地球的課題と国際協力

1 単元の目標

- ・世界各地で見られる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に，地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。
- ・世界各地で見られる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に，地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。
- ・世界各地で見られる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について，地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して，主題を設定し，現状や要因，解決の方向性などを多面的・多角的に考察し，表現する。
- ・地球的課題と国際協力について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などをもとに，地球的課題の各地で共通する傾向性と課題相互の関連性などについて大観し理解している。・世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などをもとに，地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解している。	<ul style="list-style-type: none">・世界各地でみられる地球環境問題，資源・エネルギー問題，人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について，地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して，主題を設定し，現状や要因，解決の方向性などを多面的・多角的に考察し，表現している。	<ul style="list-style-type: none">・地球的課題と国際協力について，よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究，解決しようとしている。

3 指導と評価の計画（19時間）

内容のまとめり	小単元	各次の内容と配当時間例
地球的課題と国際協力 (19時間)	①複雑に絡み合う地球的課題 ②地球環境問題 (4時間)	導入 相互に関連する地球的課題とその解決に向けて (1時間) 第一次 多様な地球環境問題 (1時間) 第二次 熱帯林の破壊への対策 (1時間) 第三次 地球温暖化への対策 (1時間)
	③資源・エネルギー問題 (4時間)	第一次 世界のエネルギー・鉱産資源 (1時間) 第二次 エネルギー利用の現状と課題 (1時間) 第三次 地域で異なるエネルギー問題への取組 (2時間)
	④人口問題 (4時間)	第一次 世界の人口 (1時間) 第二次 発展途上国と先進国の人口問題 (1時間) 第三次 地域で異なる人口問題への取組 (2時間)
	⑤食料問題 (3時間)	第一次 飢餓と飽食 (1時間) 第二次 地域で異なる食料問題への取組 (2時間)
	⑥都市・居住問題 (4時間)	第一次 世界の都市の発展 (1時間) 第二次 発展途上国と先進国の都市・居住問題 (1時間) 第三次 地域で異なる都市・居住問題への取組 (2時間)

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	ねらい・学習活動	知 思 態	評価規準等
	①【ねらい】世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる国や地域人口の特徴について理解する。 【学習課題】「世界の人口分布や人口増加には、どのような傾向がみられるのだろうか。」		
第一次	<ul style="list-style-type: none"> 世界の人口密度を示した資料を見せて、人口密度が高い地域、低い地域について、それぞれ自然的環境や社会的環境にはどんな特徴がある地域か、気付いたことや分かったことをペアで話し合う。 世界の人口の推移や世界の人口増 	<ul style="list-style-type: none"> ● ● 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の人口分布とその特徴について理解している。 ●人口増加率の高い地域の地理的

1 時 間 扱	<p>加率を示した資料を見せて、人口増加の高い地域はどこか、地域の特徴も含めて、ペアで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3つの国(エチオピア、イギリス、日本)の人口ピラミッドを見せて、3つの国のそれぞれの特徴について、読み取ったことをワークシートにまとめる。 	○	<p>特徴を理解している。</p> <p>○人口ピラミッドの形と人口構成の関係、それぞれのピラミッドの形を示す主な国について理解している。</p>
第 二 次 1 時 間 扱	<p>②【ねらい】 発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、難民問題について理解する。</p> <p>【学習課題】「発展途上国と先進国の人口問題には、どのような違いがあるのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界の合計特殊出生率を示した資料や世界の乳児死亡率を見せて、発展途上国と先進国では合計特殊出生率において、どのような違いがみられるか、また、乳児死亡率が高い地域にはどのような特徴があるのかについて、気付いたことや分かったことをワークシートにまとめる。 おもな国の老年人口の割合の推移を示した資料やおもな国の年少人口の推移を示した資料を示して、先進国では、高齢化と合わせて少子化が進行していることを資料を活用しながら確認する。 留) インドとフランスは第三次の学習につなげるために示す。 留) 人口転換について説明し、工業化の進展など産業の発達など経済水準の向上と人口増加について整理する。 人口転換の考え方を踏まえて、発展途上国と先進国の抱える人口問題の違いをワークシートにまとめる。 	● ○ ● ○	<p>○発展途上国と先進国の人口問題について理解している。</p> <p>○国や地域ごとの人口構成の特徴を理解している。</p> <p>●人口転換の考え方を理解している</p> <p>○人口転換の考え方を活用して発展途上国と先進国の人口問題の違いを多角的・多面的に考察し、表現している。</p>
	<p>③【ねらい】 日本の人口問題を自身の問題として主体的に追究する。また、国際的な課題である難民問題について多面的・多角的に考察する。</p> <p>【学習課題】「人口問題への取組は、インドとフランスでどのように異なるのだろうか。」</p>		

「また、日本の人口問題に対してどんな対策が考えられるだろうか。」

第三次

2時間
抜

- ・インドとフランスでは、人口問題を解決するための取組を予想させワークシートに記入する。
- ・インドの州別出生率とおもな州の識字率の資料を見せて、出生数が多い地域の識字率の傾向を、男女差に着目しながら、気付いたことをペアで話し合う。その後、ICTを活用してインドの人口抑制政策がうまく進まない理由を調べ、ワークシートにまとめる。
- ・フランスの人口ピラミッドを見せて、日本の人口ピラミッドとくらべて、気付いたことをペアで話し合う。
- ・自宅で幼児の面倒をみる保育ママの写真とフランスのおもな保育サービスの資料を見せて、気付いたことをペアで話し合う。その後ICTを活用して、フランスの人口増加、維持のための様々な取組を調べ、ワークシートにまとめる。
- ・他国の人口問題を参考に、日本の人口問題とその対策をペアで話し合い、それをもとに自分の考えをワークシートにまとめる。また、人口問題の学習をとおして考えたことを記述する。

-
-
-
-
-

- 発展途上国と先進国の人口問題の違いを理解している。
- インドでの人口増加抑制の取組について、多面的・多角的に考察し、表現している。
- フランスと日本の人口ピラミッドの特徴（違い）を読み取っている。
- フランスでの人口増加、維持の取組について、多面的・多角的に考察し、表現している。
- インド及びフランスでの人口増加維持の取組を参考に、日本の人口問題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に追究、解決しようとしている。

【学習課題】世界で発生する難民問題に国際的にどのように取り組んだらよいかだろうか。

- ・難民申請をしながら日本で働く外国人(クルド人)の写真を見せて、どんなことが問題として考えられるか班で話し合う。
- ・写真のクルド人が日本にやってきた背景を考えて、ワークシートにまとめる。
留)クルド人を取り巻く歴史と現

-
-

- 写真から社会的な問題を見だし、学習に主体的に取り組もうとしている。
- クルド人の取り巻く環境を多面的・多角的に考察し、表現している。

<p>状に注目するよう、指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界各地で発生している難民についてICTを活用して調べるとともに、国際的にどのように取り組んだらよいかワークシートにまとめる。 	○	<p>○地球的な課題の解決の方法を、国際協力を軸に多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
---	---	--

4 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 評定に用いる「知識・技能」を評価するワークシートの例

第一次 1時間目

資料★ 3つの国（エチオピア、イギリス、日本）の人口ピラミッド		
<p>エチオピアの人口ピラミッド 【富士山型】</p>	<p>イギリスの人口ピラミッド 【釣鐘型】</p>	<p>日本の人口ピラミッド 【つぼ型】</p>

【読み取り】 3つの国（エチオピア、イギリス、日本）の人口ピラミッドを見て、3つの国のそれぞれの特徴について、年少人口と老年人口に着目して、読み取ったことをワークシートにまとめなさい。

<エチオピア>
年少人口の割合は約40%と3つの国の中で最も高いが、老年人口の割合は約3%と3つの国の中で最も低い。これは多くの発展途上国で見られる富士山型である。

<イギリス>
年少人口の割合は約18%と日本より高いがエチオピアより低い。老年人口の割合は約18%と日本より低いがエチオピアより高い。これは年少人口と老年人口との割合にあまり差が生じない釣鐘型である。

<日本>
年少人口の割合は約12%と3つの国の中で最も低い、老年人口の割合は約28%と3つの国の中で最も高い。これは出生率よりも死亡率が高くなる国で見られるつぼ型である。

上記のような記述があれば「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。また、以下のような記述は「努力を要する」状況（C）と考えられる。

<エチオピア> 年少人口の割合は約40%で、老年人口の割合は約3%である。

<日本> 年少人口の割合は3つの国の中で最少であるが、老年人口の割合は3つの国の中で最大である。

このような記述は数値をただ記述したにすぎず、それぞれの国の特徴について読み取ったとはいえない。他の国との比較を行ったり、それぞれの国の社会的な背景と関連させて特徴について読み取るよう、指導する必要がある。

(2) 評定に用いる「思考・判断・表現」を評価するワークシートの例①

第三次 1時間目

インドとフランスの人口問題について考えよう

【予想】 インドとフランスでは、人口問題を解決するために、どのような取り組みが行われていると考えられるか、予想してみよう。

インドもフランスも人口が増加していることに対する食料不足や住宅問題などへの対応策の取り組みが行われているのではないかと。ただし具体的にどのような策が行われているのかはよく分からない。

【まとめ】 インドとフランスでは、人口問題を解決するために、どのような取り組みが行われているのか、ペアで話し合い、話し合ったことから新たに気付いたことをまとめてみよう。

<話し合いのメモ>

- インドは貧富の差が大きいのではないかと。
- インドは女性の社会進出などが遅れているのではないかと。
- フランスは少子高齢化が進み、出生率が減少しているのではないかと。
- フランスの人口ピラミッドと日本の人口ピラミッドには違いが見られる。

<新たに気付いたこと>

インドは近年経済発展が進んできたが、貧富の差が大きく、出生率の地域差も大きい。特に農村では子どもが労働力と考えられていたり、女性の識字率の低さなどが問題となっていて、この問題を解決するための取り組みが行われている。

フランスは日本と同様に高齢化が進んでいるが、人口ピラミッドが日本のようなつぼ型にはなっていない。これは保育ママの制度や様々な保育サービスの導入による出生率向上への取り組みが成功していると考えられる。

上記のような記述があれば「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。ペアで話し合ったことを生かして多面的・多角的に思考しており、それを表現できている。

以下のような例は「努力を要する」状況（C）と考えられる。

<新たに気付いたこと>

インドもフランスも人口が急増しているので、食料不足を解消するために農産物の増産を行い、住宅不足を解消するために十分な住宅を供給するなどの対応策の取り組みが行われている。

最初の【予想】と何ら変化がみられず、学習インドの出生率を如何に減少させ、フランスの出生率を如何に増加させるかという政策に注目するよう助言が必要である。

(3) 評定に用いる「思考・判断・表現」を評価するワークシートの例②

第三次 2時間目

資料★ 難民申請をしながら日本で働くクルド人

難民申請をしながら日本で働く
外国人（クルド人）難民の写真

左の難民申請をしながら日本で働く外国人難民の
写真を見て、気付いたこと班で話し合おう。

※写真のクルド人が日本にやってきた背景を考えて、まとめてみよう。

クルド人は、トルコ、イラン、イラク、シリアの4カ国にまたがる山岳地域で暮らしており、「国をもたない世界最大の民族」と言われている。約3千万人の民族であり、独立志向が強いと言われているが、トルコではクルド語の使用が禁止されるなど長年弾圧されてきた。また、この地域は世界でも最も政情不安な地域の1つであり、内戦やテロが絶えず繰り返されている。迫害や戦争によって安心して暮らすことができないために、知人や親戚を頼って日本にやってきたと考える。

※世界で発生する難民問題に国際的にどのように取り組んだらよいだろうか。

〈略〉

上記のような記述があれば「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。また、以下のような記述は「努力を要する」状況（C）と考えられる。

賃金の高い日本で働くため、人手不足の目立つ建設作業の仕事に従事している...

このような記述は希望すれば外国人は労働者として誰でも日本に来て仕事ができると誤解していると考えられる。外国人の出身国の事情や国際的な情勢などを踏まえて多角的に考えるよう促す手立てが必要である。

次のような記述も「努力を要する」状況（C）と考えられる。

日本はクルド人をはじめ多くの難民を受け入れてきている...

日本の難民受け入れに関して、生徒が誤認していると考えられる。難民に関する問題についてインターネットや文献を活用して情報収集するよう指導することが考えられる。

(4) 評定に用いる「主体的に学習に取り組む態度」を評価するワークシートの例

第三次 1時間目

<日本の人口問題とあなたが考える解決策と人口問題の学習をとおして考えたこと>

少子高齢化がヨーロッパと比べて急速に進んでおり、生産年齢人口の割合を維持するためには少子化を緩和する取り組みが必要である。そのためには、子育て世帯を支援する手厚い政策が必要と考えられ、育児休業の保障や保育施設の充実、教育費の無償化などの社会全体で子どもを育てるような政策が必要であり、その結果、出生率の向上につながっていくと考えられる。

上記のような記述があれば、課題に対しての解決策を考え、よりよい社会の実現を追究しており、「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。なお、単元の導入として最初に日本の人口問題と解決策について生徒に書かせておけば、単元の学習前後の生徒の考えの変容を見取ることができる。

上記のような記述に加え、次のような記述があれば、自らの学習を調整してきた、あるいは調整しようとしていると分かり、「十分満足できる」状況（A）と考えられる。

<前 略>

国際的問題や地球的課題を考えるときに、今まで先進国と発展途上国という二元対立的な見方で考えてきた。問題や課題の全体を捉えるときはその見方も必要であるが、個別の国の人口問題を解決策を考えるときは、それぞれの国の状況や文化的・歴史的背景を踏まえて考えることや他国を参考にしつつも自国にあった解決策を考えることが必要であると思った。

一方、以下のような例は「努力を要する」状況（C）と考えられる。

<日本の人口問題とあなたが考える解決策と人口問題の学習をとおして考えたこと>
先進国の中でも人口減少が緩和しているフランスと同じような政策を導入することが解決策である。日本も出生率が上がって欲しい。

単にフランスと同じ政策とだけ記されており、具体的な解決策が示されていない。他国の取り組みを参考にしながらも、日本の人口問題を自分自身の問題として考え、フランス以外の先進国の出生率向上の取組を調べるなどした上で、日本の人口問題への対策を具体的に考えるよう指導するなどの手立てが考えられる。

単元名

国際秩序の変化や大衆化と私たち

内容のまとめり

C 国際秩序の変化や大衆化と私たち

- (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い (2) 第一次世界大戦と大衆社会
(3) 経済危機と第二次世界大戦 (4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

1 単元の目標

- ・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・国際秩序の変化や大衆化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・国際秩序の変化や大衆化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 C 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」を事例とした「単元の評価規準」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、資料から情報を読み取ったりまとめたりしている。 ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題について、日本とその他の国や地 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を迫及しようとしている。

<p>化, 教育の普及とマスメディアの発達などを基に, 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ, 大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌, ファシズムの伸張, 日本の対外政策などを基に, 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ, 国際協調体制の動揺を理解している。 ・第二次世界大戦の展開, 国際連合と国際経済体制, 冷戦の始まりとアジア諸国の動向, 戦後改革と日本国憲法の制定, 平和条約と日本の独立の回復などを基に, 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ, 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解している。 ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。 	<p>域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し, 表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済危機の背景と影響, 国際秩序や政治体制の変化などに着目して, 主題について, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 各国の世界恐慌への対応の特徴, 国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し, 表現している。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響, 第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して, 主題について, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 第二次世界大戦の性格と惨禍, 第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活, 日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し, 表現している。 ・事象の背景や原因, 結果や影響などに着目して, 日本とその他の国や地域の動向を比較したり, 相互に関連付けたりするなどして, 主題について多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会の実現を視野に, 自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに, 次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
---	---	---

3 C 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

中項目	小単元	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い	小単元1	<p>【ねらい】 国際関係の緊密化，アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭，植民地の独立，大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化，生活様式の変化などに関する資料を活用し，国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し，問いを表現する。</p> <p>【課題】 「国際秩序の変化や大衆化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から，興味・関心をもったこと，疑問に思ったこと，追及したいことなどを問いの形にして表現してみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの学習や中学校の学習を踏まえて，国際秩序の変化や大衆化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から，情報を読み取る。 ● 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について，興味・関心をもったこと，疑問に感じたこと，追及したいことなどを見いだして，問いの形に表現する。 	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ● 国際化に伴う生活や社会の変容について，資料から情報を読み取ったり，まとめたりしている。 ● 国際化に伴う生活や社会の変容について，考察し，問いを表現している。 ● 大項目全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。
(2) 第一次世界大戦と大衆社会	小単元2	<p>【ねらい】 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察することを通して，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。</p> <p>【主題】 「第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦後の国際協調体制」</p> <p>小単元2の学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小単元2全体に関わる問い「第一次世界大戦は，国際関係をどのように変えたのだろうか」について考察する。 <p>第①次 第一次世界大戦の展開</p> <p>【課題a】 「日本やアメリカ合衆国，中国政府，さらに英領インドなどは，何を期待して戦争に参加したのだろうか」</p> <p>【課題b】 「あなたは，第一次世界大戦が長期戦となり，未曾有の被害が発生したことについて，その最も大きな要因は何だと考えるか」</p>	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ● 小単元2全体に関わる問いの答えを予想することで，小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。 ● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ● 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，日本の参戦の背景と影響などに着目して，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第一次世界大戦の性格と惨禍，日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面

	<p>第②次 日本やアジアの経済成長</p> <p>課題 a 「第一次世界大戦が日本やアジアの経済にどのような影響を与えたのだろうか」 ●</p> <p>課題 b 「あなたは、第一次世界大戦が日本やアジアの経済に与えた影響のうち、最も重要なものは何だと考えるか、それはなぜか」 ●</p> <p>第③次 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭</p> <p>課題 a 「ロシア革命とソヴィエト連邦の成立は、第一次世界大戦後の国際社会にどのような影響を与えたのだろうか」 ●</p> <p>課題 b 「あなたは、第一次世界大戦後にアメリカ合衆国が台頭したことについて、その最も大きな要因は何だと考えるか、それはなぜか」 ●</p> <p>第④次 ナショナリズムの動向と国際連盟の成立</p> <p>課題 a 「第一次世界大戦中の経済成長や民族自決の気運の高まりは、大戦後の国際社会をどのように変えたのだろうか」 ●</p> <p>課題 b 「あなたは、第一次世界大戦後に創設された国際連盟は、大戦後の国際社会においてどのような役割を果たしたと考えるか、それはなぜか」 ●</p> <p>第⑤次 まとめ</p> <p>・各次の学習内容を踏まえて、小単元 2 全体に関わる問い ○ ○ について、資料を活用して考察し、その結果を表現</p>	<p>的・多角的に表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p> <p>●第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p> <p>●第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p> <p>●第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に表現している。</p> <p>○「総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制」について理解している。</p> <p>○第一次世界大戦の推移と第一次世界</p>
--	--	--

	する。				大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、 小单元2全体に関わる問い について考察し、表現している。					
小单元3	<p>【ねらい】第一次世界大戦の前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がり理解する。</p> <p>主題「第一次世界大戦前後の大衆社会の形成と社会運動の広がり」</p>									
	<p>小单元3の学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小单元3全体に関わる問い「なぜ、1920年代に大衆文化が広範囲に及んだのだろうか」について考察する。 <p>第①次 大衆の政治参加と女性の地位向上</p> <p>課題a「欧米諸国では、国民生活の向上などによる人々の政治参加を背景に、女性の地位はどのように変化したか」</p> <p>課題b「あなたは、人々の政治参加や女性の地位向上が、その後の政治や経済にどのような影響を与えたと考えるか、それはなぜか」</p> <p>第②次 大正デモクラシーと政党政治</p> <p>課題a「日本において大正デモクラシーは、どのように展開したのか」</p> <p>課題b「あなたは、当時の日本において、社会主義運動などの社会運動が活性化した要因は何だと考えるか、それはなぜか」</p> <p>第③次 大量消費社会と大衆文化</p> <p>課題a「大量生産や大量消費が人々の生活をどのように変えたのだろうか」</p> <p>課題b「あなたは、当時の社会や文化の変化のうち、その後の政治や経済に最も大きな影響を与えたのは何だと考えるか、それはなぜか」</p>	●	●	● 小单元3全体に関わる問い の答えを予想することで、小单元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。	● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	● 第一次世界大戦の前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がり表現している。	● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	● 第一次世界大戦の前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がり表現している。	● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。	● 第一次世界大戦の前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がり表現している。

		<p>第④次 教育の普及とマスメディアの発達</p> <p>課題 a 「教育の普及が人々の生活をどのように変えたのだろうか」 ●</p> <p>課題 b 「あなたは、人々の政治的、社会的な自覚によって、その後の政治や社会に最も大きな影響を与えたのは何だと考えるか、それはなぜか」 ●</p> <p>第⑤次 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各次の学習内容を踏まえて、小単元3に関する問いについて、資料を活用して考察し、その結果を表現する。 ○ ○ 小単元2・3の学習を踏まえて小単元1で表現した問いについて確認し、必要に応じて修正する。 ● 			<ul style="list-style-type: none"> ●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ●第一次世界大戦の前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、大衆社会の形成と社会運動の広がりを表現している。 ○第一次世界大戦の前後の社会の変化などに着目して、小単元3全体に関する問いについて考察し、表現している。 ○「大衆社会の形成と社会運動の広がり」について理解している。 ●自身の学習について振り返り、調整しようとしている。
(3)	4				
	5	※中項目(3) 経済危機と第二次世界大戦(小単元4・5)の構造は中項目(2)(小単元2・3)に準ずる。			
(4)	小単元6	<p>【ねらい】 自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・文化、対立・協調などの観点から設定された主題について多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。</p> <p><課題1></p> <p>(例1) 主題 「近代における大衆の社会進出に見る男女間の格差」(平等・格差を観点に) 課題(問い) 「近代オリンピックの開催当初、男子選手に比べて女子選手が極めて少なかったのはなぜだろうか。また、現代の課題に関連付けると、どのような点に関連しているだろうか。」</p> <p>(例2) 主題 「近代における参政権の制限について」(自由・制限を観点に) 課題(問い) 「第一次世界大戦後に民主主義的風潮が広がりを見せる中、なぜ日本では、男子に普通選挙が認められる一方で、治安維持法が制定されたのであろうか。また、現代の課題に関連付けると、どのような点に関連しているだろうか。」</p> <p><課題2></p> <ul style="list-style-type: none"> 小単元1で表現した問いを振り返ろう。 			
		<p><課題1></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題(問い)について、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、話し合った結果を表現する。 ○ ○ 			<ul style="list-style-type: none"> ○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史について理解している。 ○事象の背景や原因、結果などに着目して、主題について、現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、

	<p><課題 2></p> <ul style="list-style-type: none"> 小単元 1 で表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。 			<p>表現している。</p> <p>○ ○ 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」における学習の経緯について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>
--	--	--	--	---

4 C 「国際秩序の変化や大衆化と私たち」のまとめとなる小単元「(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」の指導と評価の計画

<p>単元名</p> <p>国際秩序の変化や大衆化と私たち</p>

<p>小単元 6</p> <p>C 国際秩序の変化や大衆化と私たち</p> <p>(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p>
--

(1) 単元の目標

「平等・格差」の観点から主題を設定し、諸資料を活用して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。その際、自身との関わりを踏まえて「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 諸資料を活用して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

(3) 指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

時	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第1時	<p>主題 「近代における大衆の社会進出に見る男女間の格差」</p> <p>課題 (問い) 「近代オリンピックの開催当初、男子選手に比べて女子選手が極めて少なかったのはなぜだろうか。また、現代の課題に関連付けると、どのような点が関連しているだろうか。」</p>				
	<p>主題や問いに対する見通しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題 (問い) 「近代オリンピックの開催当初、男子選手に比べて女子選手が極めて 				

<p>第 2 時</p>	<p>て少なかつたのはなぜだろうか」について考察し、見通しをもつ。</p> <p>諸資料を活用して考察する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近代オリンピックにおける女性が参加可能な競技数や、出場選手に占める女子選手の割合などを諸資料から読み取り、整理する。 ・整理した内容を、互いに発表し合い、表にまとめる。 <p>課題を追究したり、解決したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料を根拠にして、「平等・格差」の両面から考察し、課題(問い)について、スポーツの分野における女性の進出と大衆化との関係や、女性の社会進出を進め男女平等を実現しようとする思想や行動が生じたことについて、多面的・多角的に考察し、その結果を表現する。 ・課題(問い)に対する説明や、「大衆の社会進出にみる男女間の格差」についての考えをグループで発表し合い、相互に確認し合う。 ・相互の評価を踏まえて、「社会進出にみる男女間の格差」についての自らの考えを見直したり修正したりして、文章で整理する。 <p>学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国際秩序の変化や大衆化と私たち」での自身の学習を振り返り、小単元1で表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめ、次の学習に向け目標を立てる。 	<p>●</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>●資料を用いて、日本とその他の国や地域の状況を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、女子選手の割合や推移について考察している。</p> <p>○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>○現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化歴史を理解している。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「国際秩序の変化や大衆化」の学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。</p>
----------------------	---	----------------------------	--

ワークシートと生徒の記述例

〔作業1〕「近代オリンピックの開催当初、男子選手に比べて女子選手が極めて少なかったのはなぜだろうか」について、自分なりの考えをまとめてみよう。

〔作業2〕間に関わる諸資料を探し、資料から読み取れることを考えてみよう。

〔作業3〕整理した内容を発表し合い、表にまとめよう。

〔作業4〕各自の意見を踏まえて、自分の考えを整理し、まとめてみよう。

〔作業5〕〔作業4〕でまとめた内容を、グループで発表し合い、「大衆の社会進出にみる男女の格差」について考察してみよう

〔作業6〕国際秩序の変化や大衆化の歴史の学習を振り返り、新たに気付いた点や、今後の学習に生かすことができる視点は？

○「主体的に学習に取り組む態度」

自らの学び方を以前と比較したりするなどして振り返り、視点や学習の方法について確認して、次の学習へのつながりを見いだそうとしているかどうかを評価する。

※「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

私は、これまでの学習で様々な歴史的事象について学習してきました。その時々^の出来事について、「なぜその事象・出来事が起きたのか」を考えてきましたが、どこか他人事^のようでした。「なぜ」と思ってみても、「何となくそうじゃないかな」というような曖昧な理由しか考えられませんでした。グループの発表でAさんは、男女共同参画局の資料を基に、近代オリンピックに参加した女性選手数の推移を発表していました。Bさんは、授業で学習した普通選挙法を例に出して、女性の権利について自分の考えをまとめていました。考えてみると、歴史総合の授業だけでなく、政経の授業でも男女雇用機会均等法など、男女の平等や格差について学習しています。友達の発表を聞いて、歴史の授業で学習することは、教科書の中だけのことではなく、視野を広げてみると、今の私達の生活にも関係していることに気が付きました。

歴史上の出来事について、資料を基に考えたり、いろいろな教科で学習した知識と絡めたりして考えると、今の私にとって少し身近なもののように感じられます。「今の私」という視点なんかをもって、これからの学習に取り組んでみたいと思います。

小単元6は、大項目C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」のまとめとして位置づけられるため、大項目全体の自らの学習を振り返り、次の大項目Dへのつながりを見いだすようにすることが大切である。ワークシートの〔作業6〕の生徒の記述は、「時代を通観する問い」や「仮説」を考察し、「画期」を表現してきたこれまでの学習を振り返るとともに、他の生徒との対話的な学びの中で得られた視点や学習の方法について確認して、次の学習へのつながりを見いだそうとしていることが読み取れるため、「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

※「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例と支援の例

男女の格差の問題というのは、昔からあることなのだなあということが分かった。男女の平等や格差の問題は早くなくなればいいと思う。

この生徒の場合、単なる感想になっており、本単元を通しての学習の深まりが見られない。また、自らの学習の経緯が示されておらず、具体的にどのような場面で、どのような学習を調整しようとしているかについて漠然とした記述となっており、他人事のような捉え方である。

ワークシートに学習の取り組み方などの項目を設け、どのように学習するかを具体的に示したり、他者の意見をまとめる項目を設けたりするなどして、自己の学習の足跡を振り返ることができるような手立てを講じることで、学習の改善を図ることが大切である。

地理歴史科 事例4（歴史総合）

キーワード 歴史総合の学習の総括となる単元の指導と評価の計画

単元名

グローバル化と私たち

内容のまとめ

D グローバル化と私たち

- (1) グローバル化への問い (2) 冷戦と世界経済
(3) 世界秩序の変容と日本 (4) 現代的な諸課題の形成と展望

1 単元の目標

- ・ グローバル化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わるグローバル化の流れを理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・ グローバル化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・ グローバル化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。</p> <p>・ 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、</p>	<p>・ 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している</p> <p>・ 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影</p>	<p>・ グローバル化に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</p>

<p>先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理などを基に，国際政治の変容を理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西ヨーロッパや東南アジアの地域連携，計画経済とその波及，日本の高度経済成長などを基に，世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。 ・石油危機，アジアの諸地域の経済発展，市場開放と経済の自由化，情報通信技術の発展などを基に，市場経済の変容と課題を理解している。 ・冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散とそれへの対応 	<p>響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，地域紛争と冷戦の関係，第三世界の国々の経済政策の特徴，欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦が各国経済に及ぼした影響，地域連携の背景と影響，日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，冷戦下の世界経済や地域連携の特徴，経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・アジアの諸地域の経済発展の背景，経済の自由化や技術革新の影響，資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し，表現している。 ・冷戦の変容と終結の背景，民主化や地域統合の背景と影響，地域紛争の拡散の背景と 	
--	--	--

<p>などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。</p> <p>・歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。</p>	<p>影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>・よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、これまでの学びとのつながりを見いだそうとしている。</p>
--	---	---

3 単元の指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

中項目	小単元	学習活動	評価の観点			評価規準等
			知	思	態	
(1) グローバル化への問い	小単元1	<p>【ねらい】冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。</p> <p>課題 「グローバル化に伴い生活や社会の変容したことを示す資料から、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを問いの形にして表現してみよう。」</p>				
		<p>・これまでの学習や中学校の学習を踏まえて、グローバル化に伴い生活や社会が変化したことを示す資料から、情報を読み取る。</p> <p>・グローバル化に伴う生活や社会の変容について興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを問いの形にして表現する</p>	●	●	●	<p>●グローバル化に伴う生活や社会の変容について、資料から情報を読み取ったり、まとめたりしている。</p> <p>●グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。</p> <p>●大項目全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。</p>

小単元2

【ねらい】地域紛争の背景や影響，冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して，地域紛争と冷戦の関係，第三世界の国々の経済政策の特徴，欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，冷戦と世界経済を理解する。

【主題】「地域紛争や冷戦による国際政治の変容の特徴」

小単元2の学習の見通し

・小単元2全体に関わる問い「地域紛争や冷戦による国際政治の変容はどのように特徴付けられるのだろうか」について考察する。

第①次 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国，冷戦下の地域紛争

課題a「冷戦は戦後独立・建国した国々にどのような影響をおよぼしたのだろうか」

課題b「あなたは，冷戦期にアジア・アフリカ各国がとった外交方針について比較したとき，どの国が取った方針が適切だったと考えるか。理由と合わせて考えよう」

第②次 先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理

課題a「先進国の政治の動向，軍備拡張や核兵器の管理は，どのような特徴をもっていたか」

課題b「あなたは，冷戦期における欧米・ソ連の外交方針を転換させた要因として，どんな出来事が重要であったと考えるか。理由と合わせて考えよう」

第③次 まとめ

・各次の学習内容を踏まえて，小単元2全体に関わる問いについて，資

- ●小単元2全体に関わる問いの答えを予想することで，小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。
- ●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
- ●地域紛争の背景や影響，冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して，地域紛争と冷戦の関係，第三世界の国々の経済政策の特徴などを多面的・多角的に考察し，表現している。
- ●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。
- ●地域紛争の背景や影響，冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して，欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し，表現している。
- ○地域紛争の背景や影響，冷戦が各国の政治に及ぼした影

		料を活用して考察し、その結果を表現する。	○		響などに着目して、小単元2全体に関わる問いについて考察し、表現している。 ○「地域紛争や冷戦による国際政治の変容の特徴」について理解している。
(2) 冷戦と世界経済	小単元3	<p>【ねらい】冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する</p> <p>主題「冷戦期における世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会の特徴」</p>			
		<p>小単元3の学習の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小単元3全体に関わる問い「冷戦期における世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会はどのように特徴付けられるのだろうか」について考察する。 <p>第①次 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題 a「西ヨーロッパや東南アジアの地域連携には、どのようなものがあったのだろうか」 ● 課題 b「あなたは、地域連携を結ぶ相手国を決める上で最も重要な条件は何だと考えるか」 <p>第②次 日本の高度経済成長</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 課題 a「日本の高度経済成長の背景にはどのようなメカニズムがあったのだろうか」 ● 課題 b「あなたは、高度経済成長が日本社会にもたらした変化のうち、最も重要なものは何だと考え 		●	<ul style="list-style-type: none"> ● 小単元3全体に関わる問いの答えを予想することで、小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。 ● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ● 冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。 ● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。 ● 日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、生活や社会の変容などを多面

	<p>るか、それはなぜか」</p> <p>第③次 まとめ</p> <p>・各次の学習内容を踏まえて、小単元3全体に関わる問いについて、資料を活用して考察し、その結果を表現する。</p>	●	○	<p>的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、小単元3全体に関わる問いについて考察し、表現している。</p> <p>○「冷戦期における世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会の特徴」について理解している。</p>
<p>(3) 世界秩序の変容と日本</p>	<p>小単元4</p> <p>【ねらい】 アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解する。</p> <p>【主題】 「アジア諸地域の発展や資源・環境問題が世界経済におよぼした影響と日本の動向」</p> <p>小単元4の学習の見通し</p> <p>・小単元4全体に関わる問い 「アジア諸地域の発展や資源・環境問題が世界経済におよぼした影響と日本の動向はどのように特徴付けられるのだろうか」について考察する。</p> <p>第①次 世界経済の転換</p> <p>【課題 a】 「アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響には、どのようなものがあつたのだろうか」</p>	○	●	<p>● 小単元4全体に関わる問い の答えを予想することで、小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。</p> <p>● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p>

<p>小単元4</p>	<p>課題 b 「あなたは、経済成長期の世界各国の価値観変化に最も強く影響を与えた要因は何だと考えるか、それはなぜか」</p> <p>第②次 世界経済の転換期の日本</p> <p>課題 a 「世界経済の転換期における日本の動向の特徴にはどのようなものがあっただろうか」</p> <p>課題 b 「あなたは、この時期の日本が世界経済にもたらした影響のうち、最も重要なものは何だと考えるか、それはなぜか」</p> <p>第③次 まとめ</p> <p>・各次の学習内容を踏まえて、小単元4全体に関わる問いについて、資料を活用して考察し、その結果を表現する。</p>	<p>●</p> <p>●</p> <p>●</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>●アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>●資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p> <p>●アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の進展における日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>○アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、小単元4全体に関わる問いについて考察し、表現している。</p> <p>○「アジア諸地域の発展や資源・環境問題が世界経済におよぼした影響と日本の動向」について理解している。</p>
-------------	---	--	---

【ねらい】 冷戦の変容と終結の背景，民主化や地域統合の背景と影響，地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して，冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し，表現することを通して，冷戦の終結，民主化の進展，地域統合の拡大と変容，地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に，冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。

【主題】 「冷戦終結後の国際政治の変容・課題と日本の役割」

小単元5の学習の見通し

● 小単元5全体に関わる問い「冷戦終結後の国際政治の変容・課題と日本の役割はどのように特徴付けられるのだろうか」について考察する。

第①次 冷戦終結後の国際政治の変容・課題

● 課題 a 「冷戦の変容と終結の背景，民主化や地域統合の背景と影響，地域紛争の拡散の背景と影響は，どのようなものであったのだろうか」

● 課題 b 「あなたは，冷戦の終結により，各国が外交方針を決定する上で，どんなことを重視するようになったと考えるか，それはなぜか」

第②次 冷戦終結後の世界における日本の役割

● 課題 a 「冷戦終結後の国際政治における日本の役割にはどのような特徴があっただろうか」

● 課題 b 「あなたは，冷戦後の世界で日本が国際貢献を行う上で，最も大きなハードルは何だと考えるか，それはなぜか」

● 小単元5全体に関わる問いの答えを予想することで，小単元全体の学習の見通しをもって取り組もうとしている。

● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。

● 冷戦の変容と終結の背景，民主化や地域統合の背景と影響，地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して，冷戦終結後の国際政治の特徴を多面的・多角的に考察し，表現している。

● 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。

● 冷戦の変容と終結の背景，民主化や地域統合の背景と影響，地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して，冷戦終結後の日本の役割などを多面的・多角的に考察し，表現している。

		<p>第③次 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各次の学習内容を踏まえて、小単元5全体に関わる問いについて、資料を活用して考察し、その結果を表現する。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、小単元5全体に関わる問いについて考察し、表現している。 ○「冷戦終結後の国際政治の変容・課題と日本の役割」について理解している。
<p>(4) 現代的な諸課題の形成と展望</p>	<p>小単元6</p>	<p>【ねらい】 持続可能な社会の実現を視野に入れて設定された主題について、多面的・多角的に考察、構想し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。</p> <p><課題1></p> <p>主題 「環境問題を巡る国内や国家間の対立」(持続可能な社会の実現を観点に)</p> <p>課題(問い) 「環境問題解消への取り組みが進まない要因として、具体的に国内・国家間にどのような利害対立があるのだろうか、また、その解消のために歴史から学ぶべき点は何だろうか」</p> <p><課題2> 小単元1で表現した問いを振り返ろう。</p>			
		<p><課題1></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題(問い) について、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、歴史的な経緯との関連を考察し、話し合った結果を表現する。 <p><課題2></p> <ul style="list-style-type: none"> 小単元1で表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、歴史的な経緯を踏まえて現代的な諸課題を展望するなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ○「グローバル化と私たち」における学習の経緯について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、今後の学習へのつながりを見いだそうとしている。

4 歴史総合のまとめとなる「(4) 現代社会の諸課題の形成と展望」の指導と評価の計画

単元名 現代と私たち	小单元6 D グローバル化と私たち (4) 現代的な諸課題の形成と展望
--------------------------	--

(1) 単元の目標

これまでの歴史総合の学びの中で身につけてきた歴史的な見方や考え方を生かし、持続可能な社会の実現を視野に入れて設定された主題に基づいて課題（問い）を表現し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、現代的な諸課題を理解することをねらいとしている。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解すること。	事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想すること。	「グローバル化と私たち」における学習の経緯について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、今後の学習へのつながりを見いだそうとしている。

(3) 指導と評価の計画

本事例では、中学校までの学習や「歴史総合」のこれまでの学習などを基に、「対立と協調」ならびに「開発・保全」の観点から、主題「環境問題を巡る国内や国家間の対立」を設定した。主題に関連して「環境問題解消への取り組みが進まない要因として、具体的に国内・国家間にどのような利害対立があるのだろうか、また、その解消のために歴史から学ぶべき点は何だろうか」という小单元6全体に関わる問いを設定し、環境問題を巡る現状に影響を与えている歴史的経緯を検討材料として取り上げている。

環境問題を巡る各種データや地図上の分布等の資料を基に、これまでに学んだ歴史的経緯との関連性について考察するとともに、将来的な問題解消への道筋も歴史の中から見いだしていけるよう、国家を超えた連携・協力の例を検討させる。また、「グローバル化と私たち」全体のまとめとして、生徒がよりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、今後の学習へのつながりを見いだすことができるようにしている。

(4) D (4) 現代的な諸課題の形成と展望 (小単元6) の指導と評価の計画

(○…「評定に用いる評価」, ●…「学習改善につなげる評価」)

時	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第 1 時	<p>【ねらい】持続可能な社会の実現を視野に入れて設定された主題について、多面的・多角的に考察、構想し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。</p> <p><課題1></p> <p>主題「環境問題を巡る国内や国家間の対立」(持続可能な社会の実現を観点に)</p> <p>課題(問い)「環境問題解消への取り組みが進まない要因として、具体的に国内・国家間にどのような利害対立があるのだろうか、また、その解消のために歴史から学ぶべき点は何だろうか」</p> <p><課題2></p> <p>・小単元1で表現した問いを振り返ろう。</p>				
	<p>小単元6の学習の見通し</p> <p>・中学校までの学習や「歴史総合」のこれまでの学習などを踏まえて、持続可能な社会の実現を視野に入れて設定された主題について、多面的・多角的に考察、構想し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。</p>			●	●小単元6のねらいに基づいて、見通しをもって学習に取り組もうとしている。
	<p>課題 <課題1></p> <p>主題「環境問題を巡る国内や国家間の対立」(持続可能な社会の実現を観点に)</p> <p>課題(問い)「環境問題解消への取り組みが進まない要因として、具体的に国内・国家間にどのような利害対立があるのだろうか、また、その解消のために歴史から学ぶべき点は何だろうか」</p>				
	<p><課題1></p> <p>・課題(問い)について、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、歴史的な経緯との関連を考察し、話し合った結果を表現する。</p>			○	○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
				○	○歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。

	<p><課題2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・小単元1で表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○「グローバル化と私たち」における学習の経緯について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、今後の学習へのつながりを見いだそうとしている。
--	--	--	--

5 観点別学習状況の評価の進め方

(1) 「知識・技能」

課題（問い）の前半部について、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、歴史的な経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解しているかについて評価を行う場面を表している。したがって、環境問題解消に対する阻害要因が、現代の世界が形成される歴史的過程での国内・国際的な対立関係の影響を受けていることを説明できていれば「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

次の例1は、生徒の記述例であり、中学校までの学習や「歴史総合」のこれまでの学習などを踏まえ、現代的諸課題の解消に歴史的経緯が関わっていることを指摘し、それらを概念的な知識として獲得していることが読み取れるため、「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

例1：「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

過去の帝国主義的支配により発展を阻害された開発途上国が、経済開発を優先させ、支配者側に属する国であった先進国の提唱する規制案に反対するという構造が存在する。

例2：「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例と支援の例

経済的発展の遅れた開発途上国が、環境へのダメージを顧みずに工業化を優先させ、環境保護意識の高い先進国の提唱する規制案に反対するという構造が存在する。

上記の例2については、環境問題を巡る現在の状況を述べているに過ぎず、歴史的経緯が関わっていることを指摘できていないため、不十分と考えられる。現在発生している諸課題には、必ず過去に要因・背景があることを意識するよう声かけを行い、これまでの学習内容との関連を気づかせるように支援を行うことが考えられる。

(2) 「思考・判断・表現」

課題（問い）の後半部について、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現しているかどうかの評価を行う場面を表している。ワークシートやレポート等の成果物を用いて評価することが想定される。

次の例2の記述例では、「環境問題解消のために歴史から学ぶべき点は何だろうか」という課題に対して、歴史的課題解消の例として「ヨーロッパ統合」を挙げ、その成立過程や現代的課題に言及し、環境問題解消への道について結びつけていることから、「多面的・多角的に考察、構

想し、表現している」と読み取れるため、「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる。

例3：「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

過去に国際的課題の解消のため、対立を乗り越えた例として「ヨーロッパ統合」の動きが挙げられる。繰り返されてきた大きな戦争の一因であり続けたドイツとフランスの対立から、この2つの国を中心とした資源の共同管理という形ではじまった統合の動きは、第二次世界大戦後に国際的な地位が低下していた西ヨーロッパに経済的・政治的統合という方法での国際社会における発言権回復の道を開いた。一方で、20世紀末以降は統合域内での経済危機の連鎖などの問題も発生し、イギリスの離脱という事態も生じさせた。これは、「主権を持った国同士」が「域内における課題対応のため主権が制限される」という事態に対し、自国民を納得させるだけの説明をなし得なかったと見ることが出来る。

環境問題を含め、国際的諸課題の解消に向けて重要なことは、国民国家という枠組みを超えて、人々が地球に住む者として危機感を共有することではないだろうか。

例4：「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例と支援の例

過去の歴史的課題解消の例として「ヨーロッパ統合」を挙げられる。戦争を未然に防ぐ目的や、世界の中で政治的・経済的にヨーロッパの地位を維持・向上させるために統合が進められ、現在概ねその目的は達成されている。環境問題等の解消のためには、全世界的にこうした統合を進めていくことが大切なのではないだろうか。

上記の例4については、例としてあげている「ヨーロッパ統合」の捉え方が浅く一面的である点が不十分と言える。環境問題解消への道と結びつけるような形にはなっているが、表現が漠然としている。こうした場合には、自身が例として挙げた事項について、既習内容を再度詳細に振り返るよう促し、背景・経緯・現状の課題等をおさえさせた上で、観点毎に環境問題解消との対称性を整理するよう促すことが考えられる。

（3）「主体的に学習に取り組む態度」

小単元1で表現した問いについて、「グローバル化と私たち」における学習の経緯について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、今後の学習へのつながりを見いだそうとしているかどうかの評価を行う場面を表している。

次の例3の記述例では、小単元1で自ら表現した問いについて、小単元3及び4での学習内容やこれまでの「歴史総合」における学習内容とが関連付けられていることが具体的に見られるとともに、今後の学習改善を図ろうとしている状況が確認できる。

例5：「おおむね満足できる」状況（B）と考えられる生徒の記述例

私が最初に表現した問いは、「経済のグローバル化は世界の人々にどのような影響を与えたのだろうか？」です。日本人は高度経済成長期以降、「経済発展を遂げた国」となっていったが、その背景には日本が直接関わっていないものの、日本の利益に関わる戦争や紛争があったり、さらに日本の発展がその一因となった環境問題も生じさせたりもしていた。このように考えると、経済のグローバル化は、帝国主義時代の植民地支配のような直接的な加害・被害の関係が見えづらいも

のの、世界の人々の間での富のバランスを悪化させた一面があることが理解できた。今後は、政治・経済や家庭科などの学習を通じて、より専門的な経済・流通の仕組みについて学んでいきたいと思いました。

例6：「努力を要する」状況（C）と考えられる生徒の記述例と支援の例

私が最初に表現した問いは、「経済のグローバル化は世界の人々にどのような影響を与えたのだろうか？」です。グローバル化によって人やモノの往来が盛んになり、より多くの人々が豊かな生活を送ることが出来るようになった。これからもニュースなどでグローバル化に関する情報を集めていきたいと思う。

上記の例6については、グローバル化に対する捉え方が一面的であるとともに、自身の今後の学びを発展させていく方法・方向性についての具体性が欠けているため、不十分と考えられる。このような場合は、物事を見る上で肯定・否定の両面から考える意識を持つように助言するとともに、他教科との繋がりを意識するように仕向けること等の支援が考えられる。

なお、ここではC評価の例を示しているが、「現代的な諸課題の形成と展望」が歴史総合の全体の総括となる単元であることを踏まえると生徒が「努力を要する」状況（C）と考えられる記述をすることは指導と評価の一体化の観点からは望ましいことではない。内容のAやBの学習の段階で教員の指導の見直しや生徒の学習の改善を促す指導を行う必要があったことになる。

ワークシート

「環境問題を巡る国内や国家間の対立」

[作業 1]

Q 環境問題解消への取り組みが進まない要因として、具体的に国内・国家間にどのような利害対立があるのだろうか？

過去の帝国主義的支配により発展を阻害された開発途上国が、経済開発を優先させ、支配者側に属する国であった先進国の提唱する規制案に反対するという構造が存在する。

[作業 2]

Q 環境問題に取り組む上での利害対立を解消するために、参考となる歴史的な事象について考えてみよう。

過去に国際的課題の解消のため、対立を乗り越えた例として「ヨーロッパ統合」の動きが挙げられる。繰り返されてきた大きな戦争の一因であり続けたドイツとフランスの対立から、この2つの国を中心とした資源の共同管理という形ではじまった統合の動きは、第二次世界大戦後に国際的な地位が低下していた西ヨーロッパに経済的・政治的統合という方法での国際社会における発言権回復の道を開いた。一方で、20世紀末以降は統合域内での経済危機の連鎖などの問題も発生し、イギリスの離脱という事態も生じさせた。これは、「主権を持った国同士」が「域内における課題対応のため主権が制限される」という事態に対し、自国民を納得させるだけの説明をなし得なかったと見る事が出来る。

環境問題を含め、国際的諸課題の解消に向けて重要なことは、国民国家という枠組みを超えて、人々が地球に住む者として危機感を共有することではないだろうか。

[作業 3]

単元のはじめに自分が立てた問い（振り返り）

経済のグローバル化は世界の人々にどのような影響を与えたのだろうか？

[作業 4]

これまでの学習内容を踏まえ、自分が立てた問いに解答してみよう。

私が最初に表現した問いは、「経済のグローバル化は世界の人々にどのような影響を与えたのだろうか？」です。日本人は高度経済成長期以降、「経済発展を遂げた国」となっていったが、その背景には日本が直接関わっていないものの、日本の利益に関わる戦争や紛争があったり、さらに日本の発展がその一因となった環境問題も生じさせたりもしていた。このように考えると、経済のグローバル化は、帝国主義時代の植民地支配のような直接的な加害・被害の関係が見えづらいものの、世界の人々の間での富のバランスを悪化させた一面があることが理解できた。今後は、政治・経済や家庭科などの学習を通じて、より専門的な経済・流通の仕組みについて学んでいきたいと思いました。

【地理歴史部会作成委員】

上園 知明	宮城県教育庁高校教育課指導主事
佐々木 貴芳	宮城県泉高等学校主幹教諭
軽部 熊一	宮城県角田高等学校教諭
佐藤 彰伸	宮城県仙台三桜高等学校教諭